

TOHOKU



2024 年度 東北大学留学生 学生生活調査まとめ

Tohoku University International Student Survey 2024

UNIVERSITY



東北大学グローバルラーニングセンター

2024 年度 東北大学留学生 学生生活調査 報告書 〈概要〉

【調査の目的】

東北大学留学生のキャンパスにおける学習・研究生活の実態を把握することで、本学の国際化の進展や留学生が直面する問題を包括的に検討し、留学生の教育支援や学内外への情報発信の改善につなげる。

【実施組織】

高度教養教育・学生支援機構グローバルラーニングセンター

【協力】

高度教養教育・学生支援機構キャリア支援センター，学生相談・特別支援センター，
DEI 推進センター，留学生課，国際サポートセンター

【対象者】

調査期間中に本学に在籍した留学生で、在籍身分は学部生 / 大学院生 / 交換留学生 / 研究生等、2,147 名（2024 年 5 月 1 日時点の在籍留学生数）

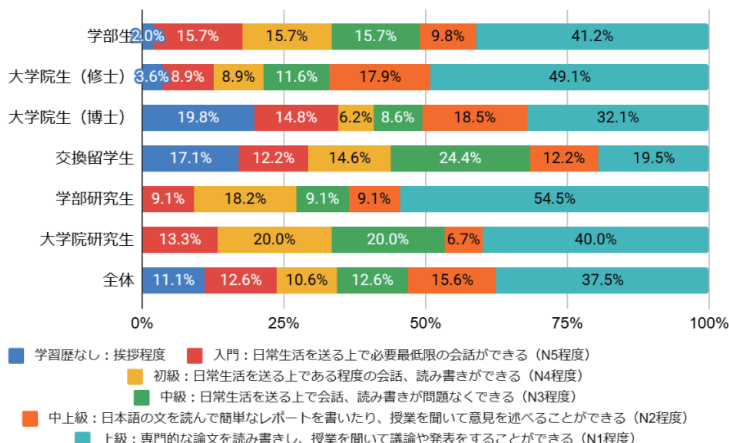
【調査期間・方法・回収状況】

2024 年 6 月 26 日～2024 年 8 月 5 日を調査期間とし、ウェブアンケートを日本語・英語で実施した。調査項目は「基本情報」「学習・研究環境」「留学生への生活支援」「心身健康・人間関係」「卒業・修了または在籍終了後の進路」で、自由記述は日英どちらでも回答可とした。回答者数は 397 名、回収率は 18.5% であった。

【結果の概要】

○基本情報

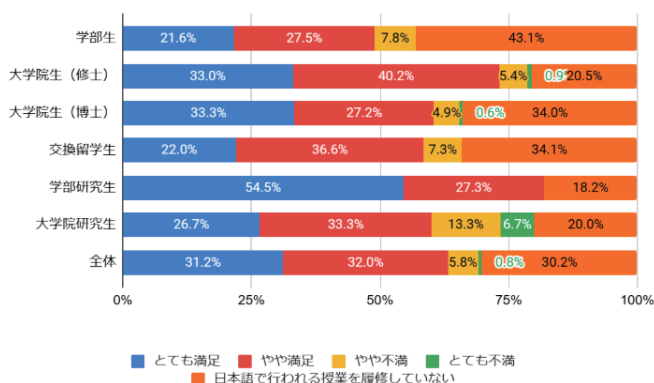
- 自己申告による日本語のレベルは、上級の学生が全体で 37.5% と最も多く、中上級と合わせると全体の半数以上ののぼる。



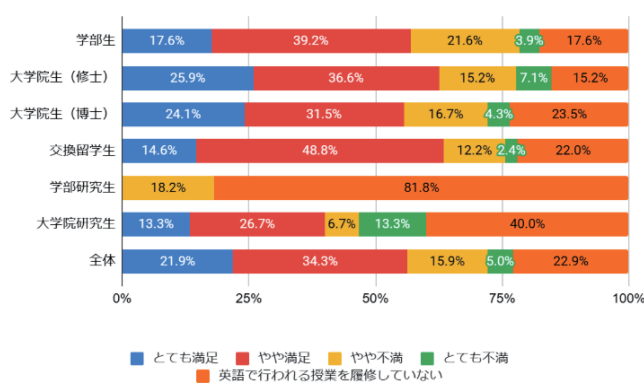
○学習・研究環境

- 英語で行われている授業内容及び数の満足度を見ると、日本語の授業満足度と比較して、ほとんどの身分において「やや不満」、「とても不満」と回答した割合が多くなっている。
- 留学生からは英語による授業の数を増やしてほしいという要望が多くあがっている。

日本語で行われている授業の数



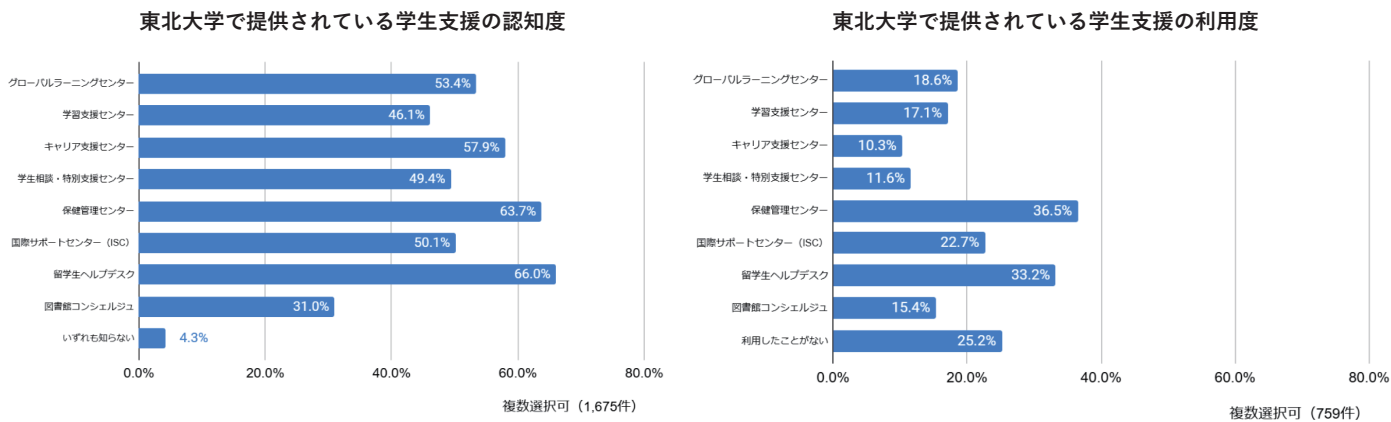
英語で行われている授業の数



○留学生への生活支援

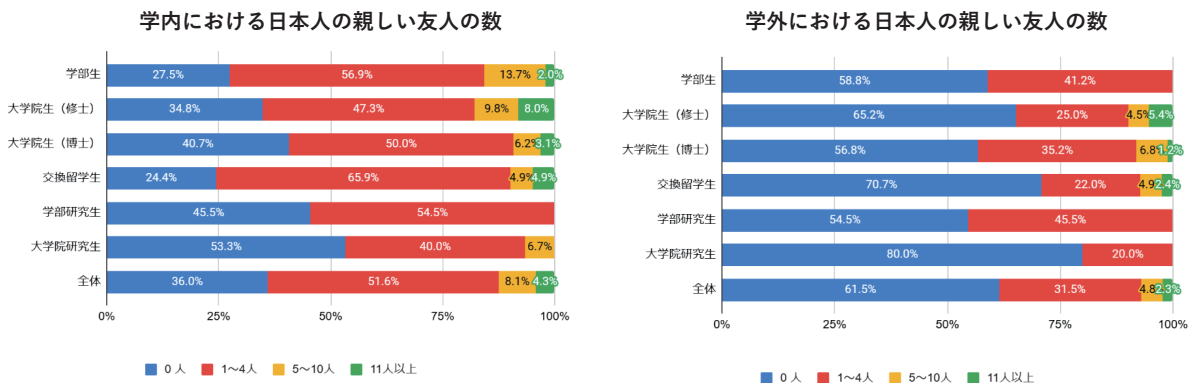
支援サービス認知度

- ・ 大学内で提供されている学生支援については、「保健管理センター」「留学生ヘルプデスク」の認知度および利用率が高い。
- ・ 認知度では「いずれも知らない」が 4.3% と極めて低い一方で、利用率では「利用したことがない」が上記に次いで 25.2% と高く、認知されているが利用されていないことを示している。



○心身健康・人間関係

- ・ 36%の学生が学内で、61.5%が学外で日本人の親しい友人が全くいないと回答している。8割以上が、学内の日本人の親しい友人を4人以下と回答しており、9割以上が学内の親しい友人を4人以下と回答している。
- ・ 日本人との交流機会については、「研究室・ゼミ」が全体で最も高く、「授業」「寮生活」と続く。



○卒業・修了または在籍終了後の進路

- ・ 日本での就職活動を希望する学生においては、「自分の日本語能力」「日本語での就職活動」などを不安視する回答が多い。
- ・ 就職支援サービスについては「就職活動の基礎知識の説明・紹介」「留学生を採用する企業情報の提供」を必要としている。

CONTENTS

2024 年度 東北大学留学生 学生生活調査 報告書

1	調査回答者の基本情報	1
2	学習・研究環境	8
3	留学生への生活支援	12
4	心身健康・人間関係	13
5	卒業・修了または在籍終了後の進路	17

所属学部・研究科・研究所等

	学部生	大学院生 (修士)	大学院生 (博士)	交換 留学生	学部 研究生	大学院 研究生	その他	総計
文学部・文学研究科	3	10	17	8	2	2	1	43
教育学部・教育学研究科	4	4	5	2	4	1		20
法学部・法学研究科	1		6			1	1	9
経済学部・経済学研究科	2	6	3	2	1			14
理学部・理学研究科	16	16	24	5		1		62
医学部・医学系研究科		6	17	1		1		25
歯学部・歯学研究科		1	20			2		23
薬学部・薬学研究科	1	3	5			1		10
工学部・工学研究科	13	25	20	6	1	2	1	68
農学部・農学研究科	8	12	13	1		1		35
国際文化研究科		9	13	1	1	1		25
情報科学研究科		12	5			1		18
生命科学研究科		3	2	1				6
環境科学研究科		4	11					15
医工学研究科			1		1			2
その他機構・研究所・ センターなど	3	1		14	1	1	2	22
総 計	51	112	162	41	11	15	5	397

- 本学の留学生 2,147 名（2024 年（令和 6 年）5 月 1 日現在）のうち、18.5% が本調査に回答している。

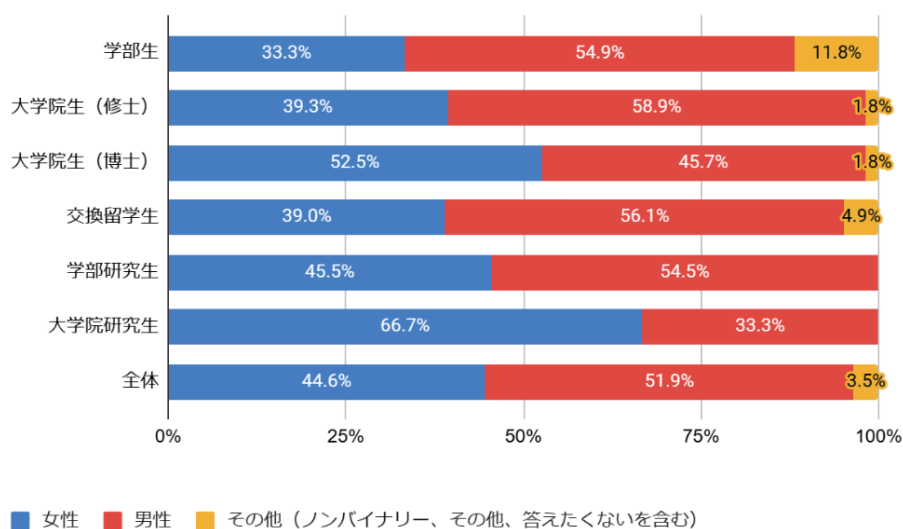
出身地域

	学部生	大学院生 (修士)	大学院生 (博士)	交換 留学生	学部 研究生	大学院 研究生	その他	総 計
東アジア	22	70	94	15	7	6		214
東南アジア	16	18	29	5	2	1	1	72
南アジア	2	3	9				1	15
北米	4	3	1	5		1		14
中南米		3	4		1			8
欧州	7	11	8	16	1	4	3	50
中東		1	6			1		8
アフリカ		2	10			2		14
その他		1	1					2
総 計	51	112	162	41	11	15	5	397

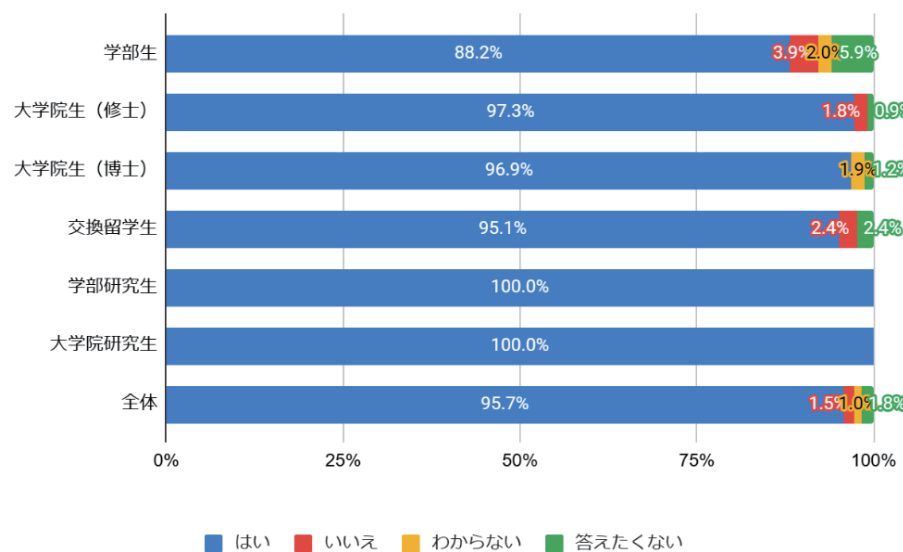
- 本学の留学生の出身地域は、アジアが 83% 以上を占め、次いで欧州 8%、アフリカ、北米、中南米、中東（2024 年（令和 6 年）5 月 1 日現在）の順に多い。今回の調査回答者は、本学の留学生の出身地域の構成をほぼ反映する結果となった。

【性別、性自認、性的指向】

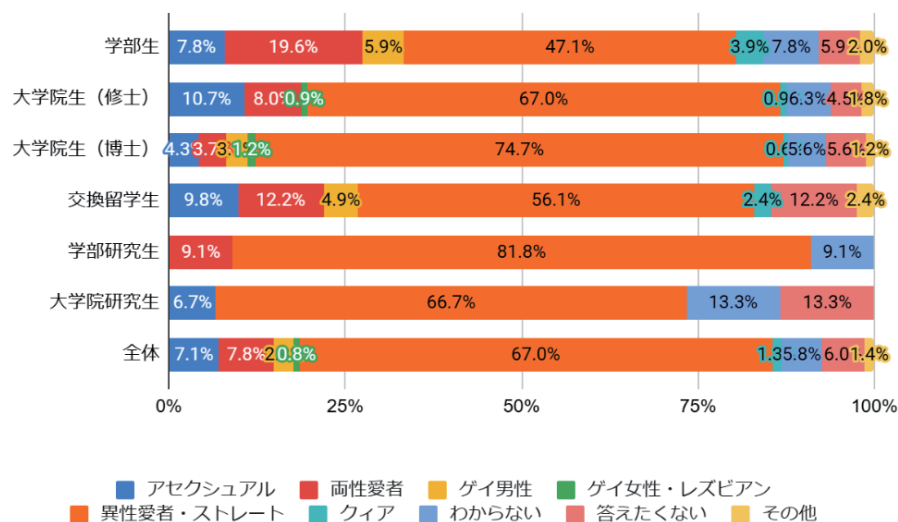
性別



性自認

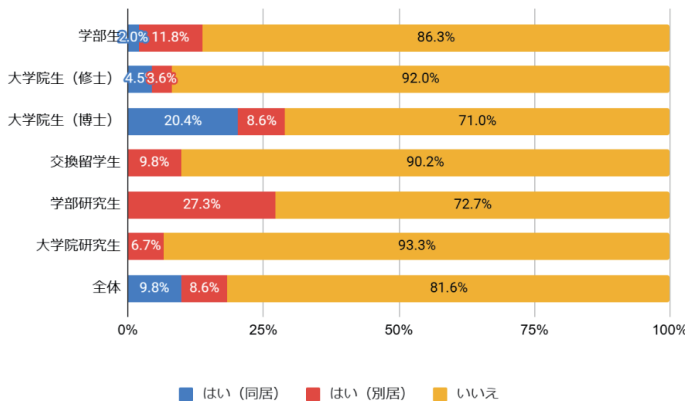


性的指向

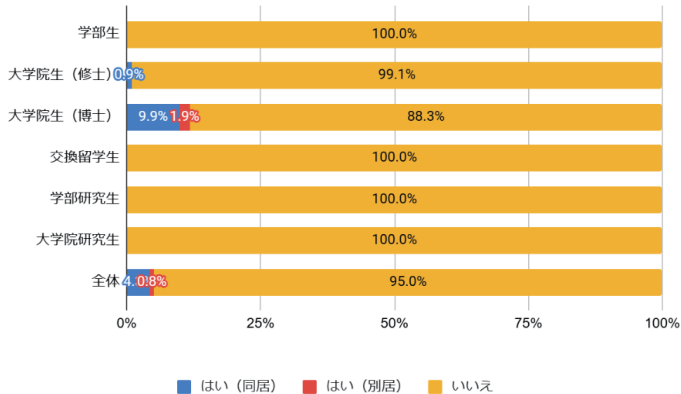


【家族等・居住環境】

配偶者・パートナーの有無

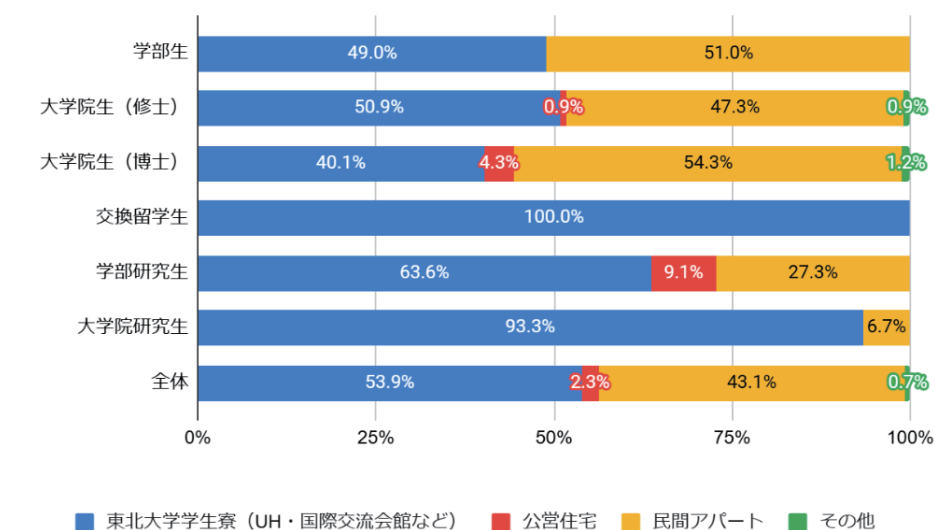


子どもの有無



- 配偶者・パートナーがいる留学生は、全体の 18.4% で、大学院生（博士）が最も多く 29.0% である。
- 子どもがいる留学生は、全体の 5.0% で、大学院生（博士）が最も多く 11.8% である。

現在の住居状況

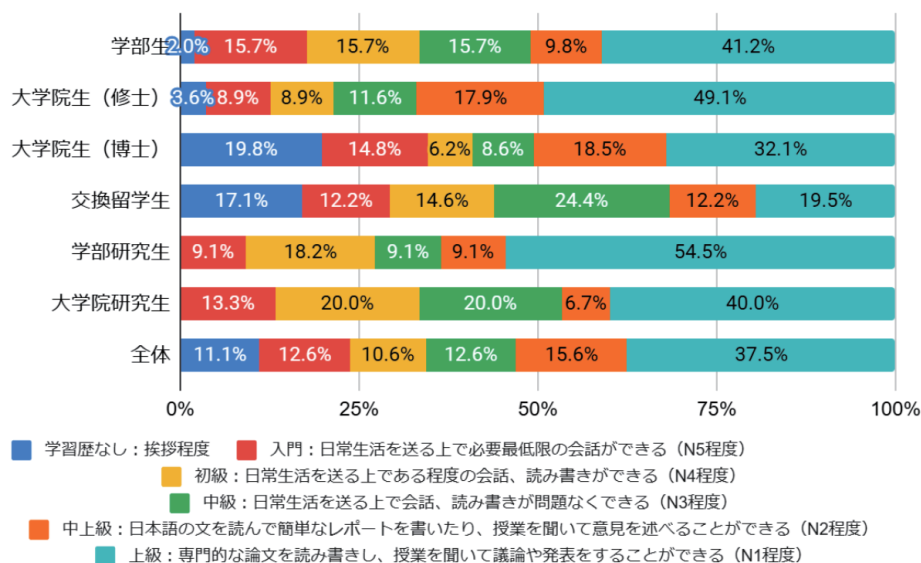


- 約半数の留学生が大学の寮に入居している。
- 交換留学生の回答者は全て寮に入居している。

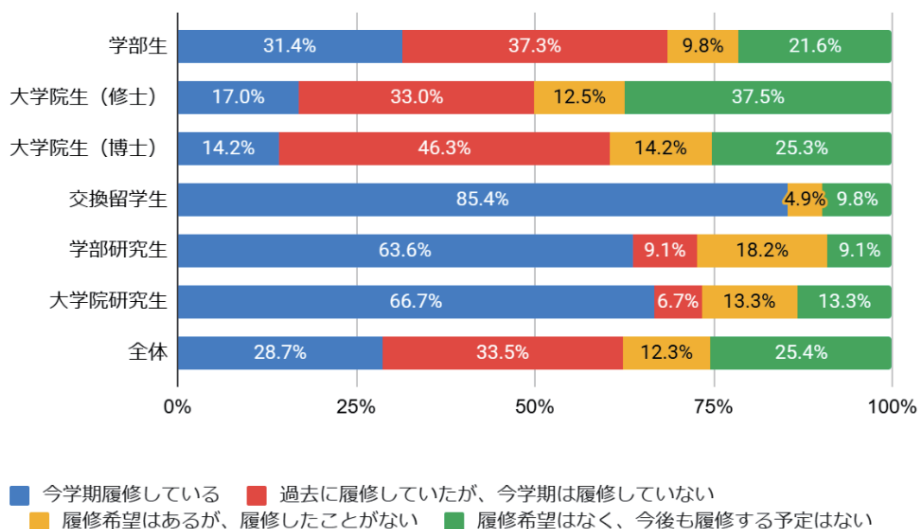


- 寮のあるエリアからキャンパスまでのアクセスを改善してもらいたい。
- キャンパスバスは便利だが、授業に間に合うよう朝早い時間の便を増やしてほしい。

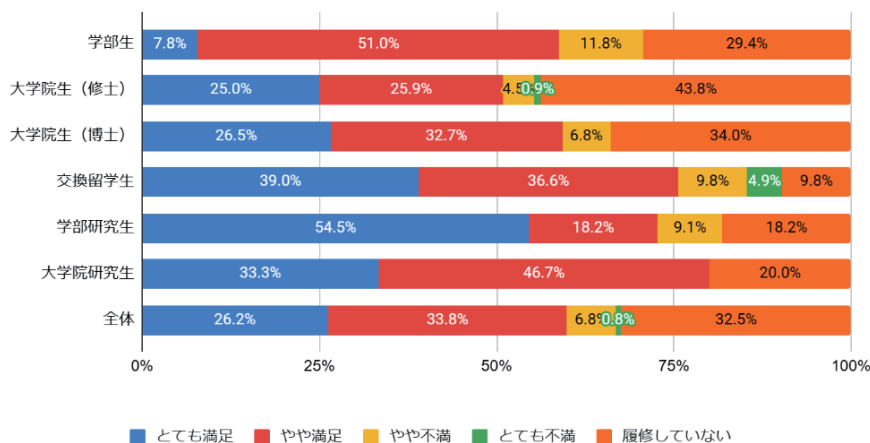
【言語】 日本語レベル



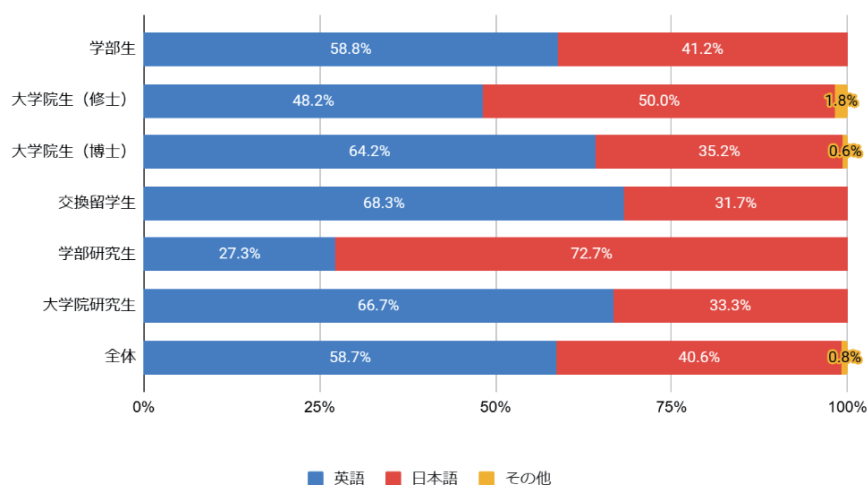
東北大学での日本語授業の履修状況



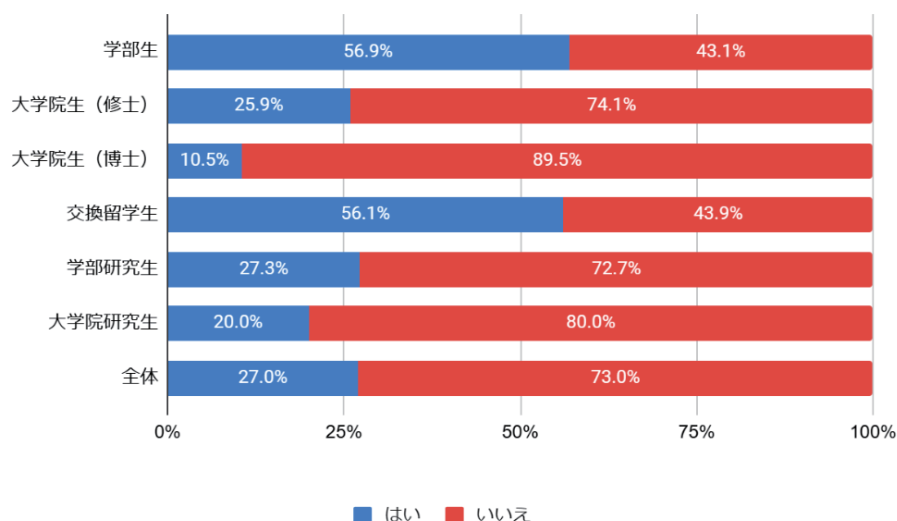
東北大学での日本語授業の満足度



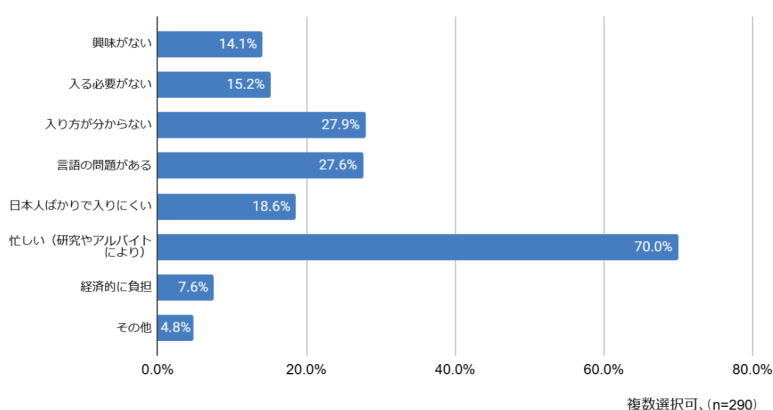
大学の学習・研究活動で最も使用する言語



学内の課外活動（クラブ・サークル等）の加入有無



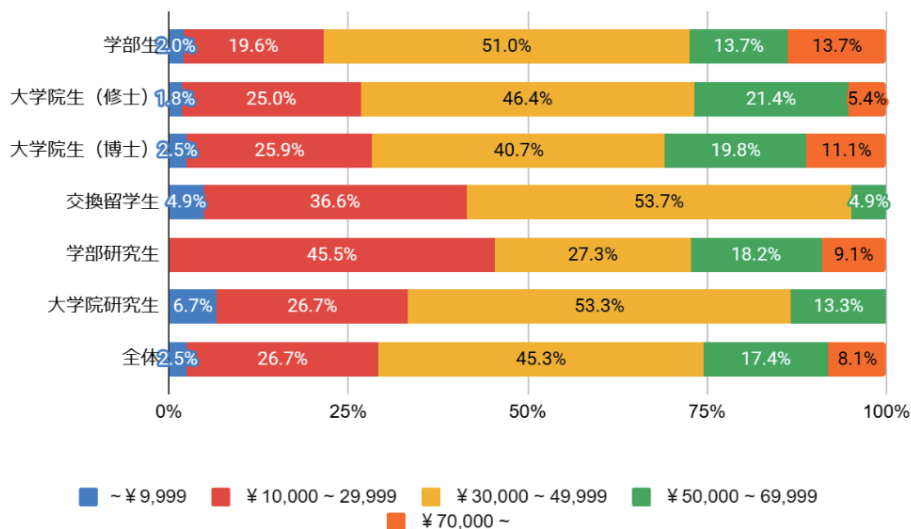
上記で「いいえ」と答えた理由



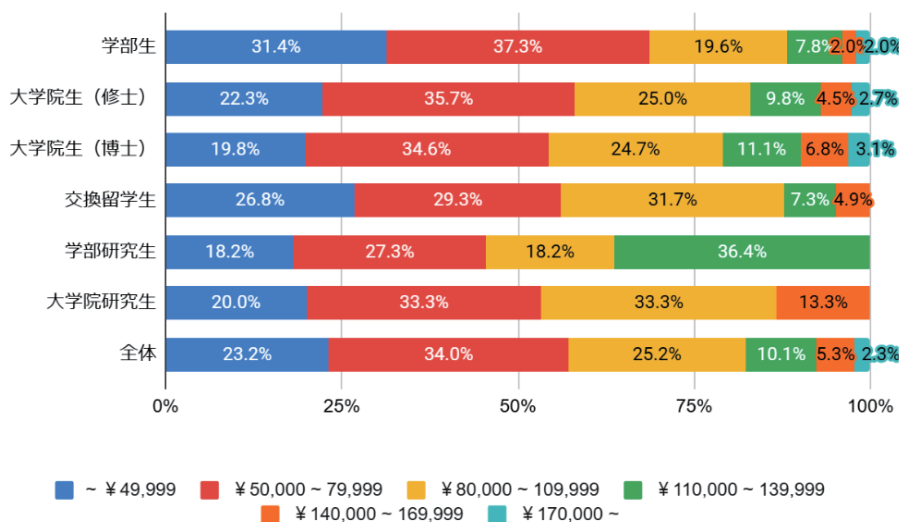
- 自己申告による日本語のレベルは、上級の学生が全体で 37.5% と最も多く、中上級と合わせると全体の半数以上にのぼる。
- 正規生より非正規生の方が日本語授業を履修している。
- 大学院生 (博士)、交換留学生、大学院研究生の 60% 以上が大学生活において日本語より英語を使用する傾向にある。
- 学部生、交換留学生の半数以上が課外活動に参加している一方、大学院生 (博士) は 10.5% と顕著に低い。また、参加しない理由としては、研究やアルバイトにより忙しいことが最も多い。

【経済状況】

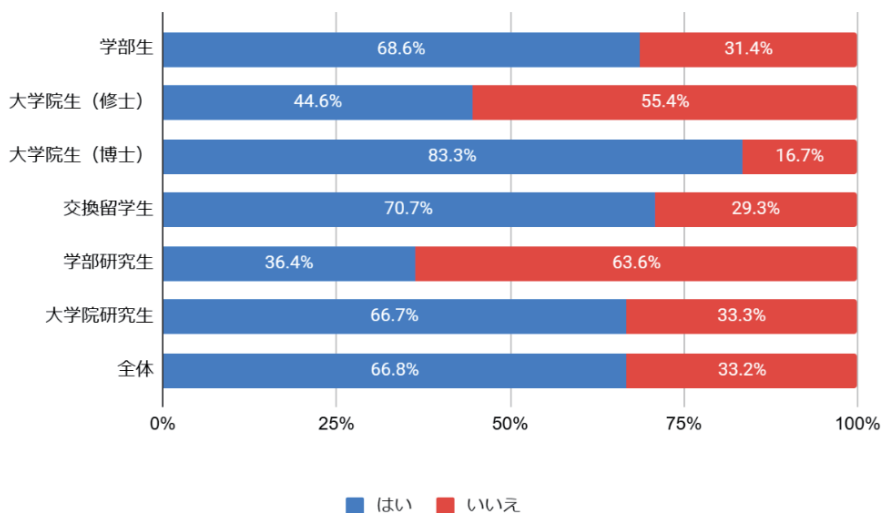
1ヶ月間のおおよその住居費（光熱費、インターネット代は含まない）



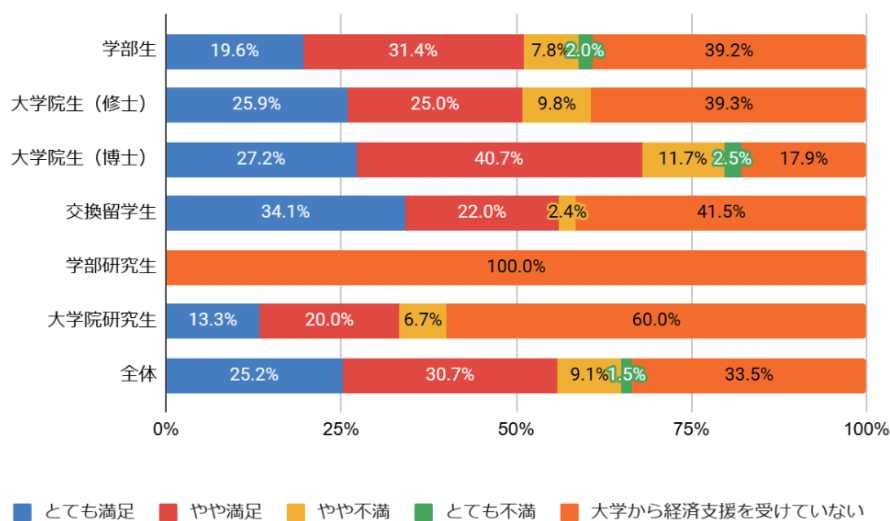
1ヶ月間のおおよその生活費（住居費・学費は含まない）



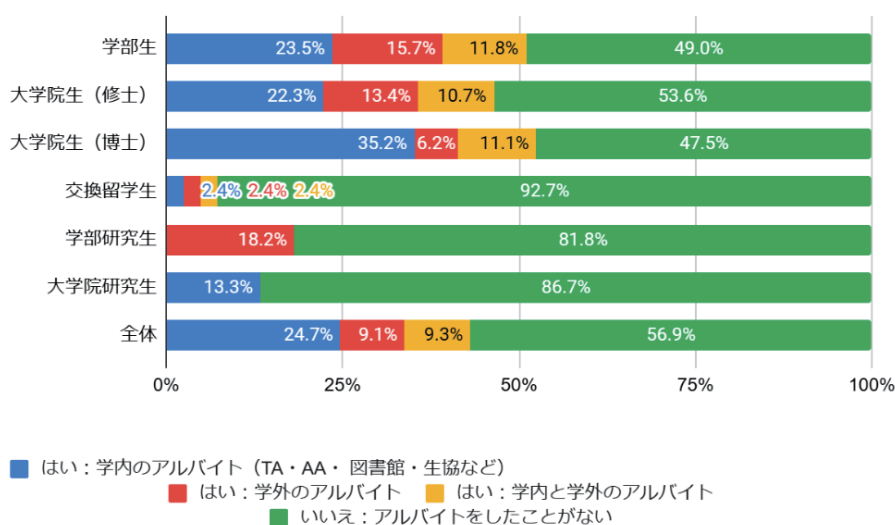
現在の奨学金の受給有無



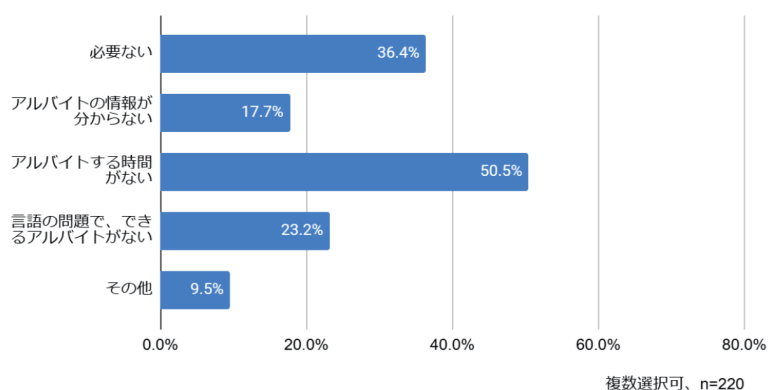
東北大学からの経済支援についての満足度



東北大学入学後のアルバイト経験



上記で「いいえ」と答えた理由

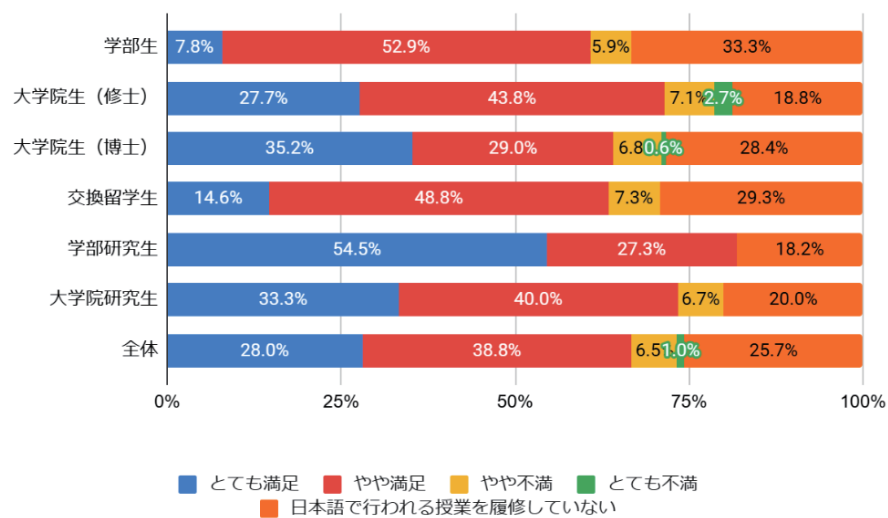


- 全体では5～8万円で生活する留学生が34.0%と最も多い。
- 留学生全体の66.8%が現在奨学金を受給しており、大学院生（博士）が83.3%と最も割合が多い。一方で学部研究生は36.4%にとどまっている。



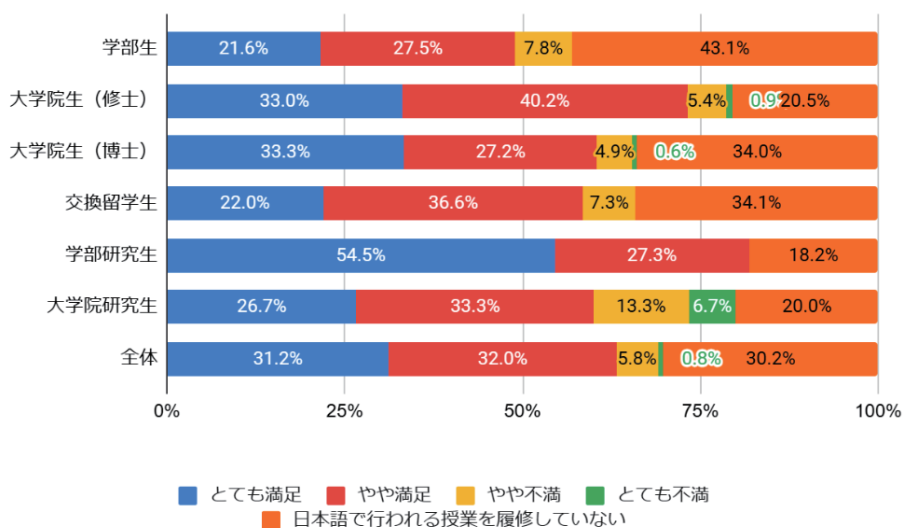
アルバイトに関する基礎的な情報・経験談について学ぶ機会がほしい。

日本語で行われている授業の内容

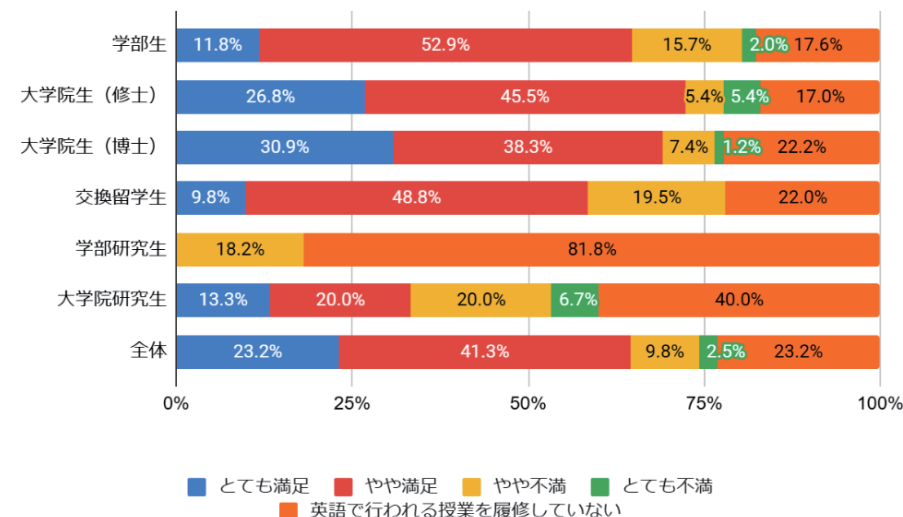


● 日本語で行われている授業の内容および数については、未履修者を除くと全体でほぼ大半が「とても満足」「やや満足」と回答している。

日本語で行われている授業の数

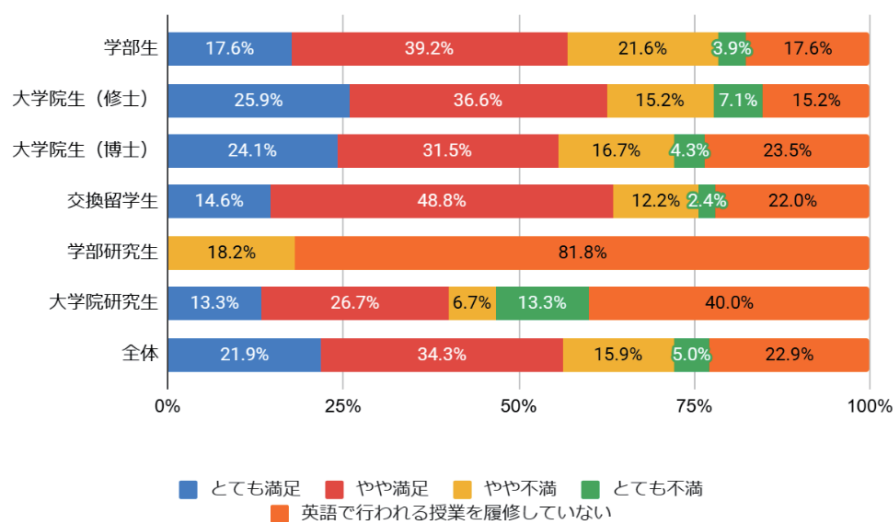


英語で行われている授業の内容



● 英語で行われている授業内容及び数の満足度は、日本語の授業満足度と比較して、ほとんどの身分において「やや不満」「とても不満」と回答した割合が多くなっている。

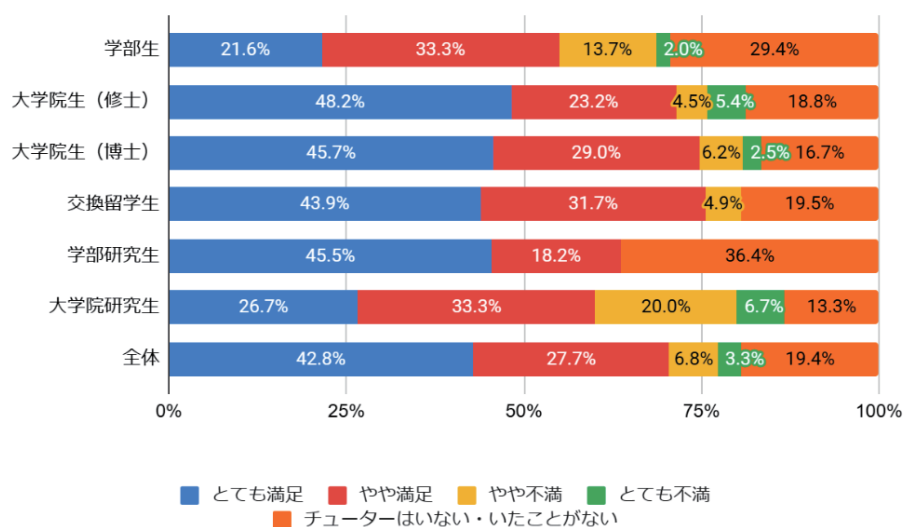
英語で行われている授業の数



VOICE

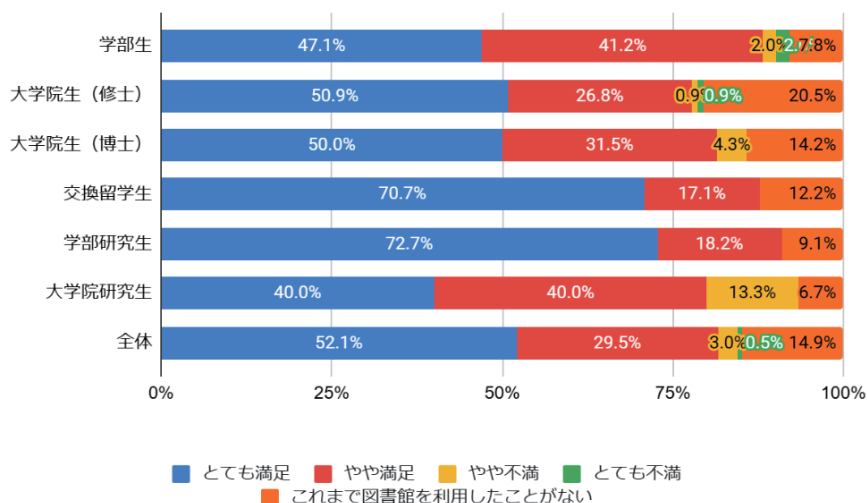
英語で行われる授業を拡充してほしい。特に専門分野に関する内容について英語で学びたい。

チューターの支援

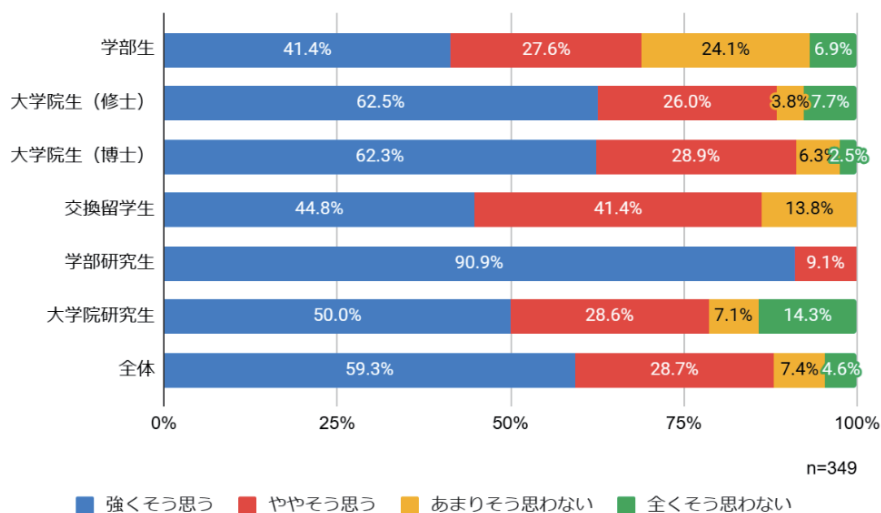


- チューターの支援については全体では半分以上が、「やや満足」「とても満足」と回答しているが、身分別に見ると、学部生の 15.7%、大学院研究生の 26.7% の回答者が「やや不満」「とても不満」と回答している。
- 学部生および学部研究生の約 3 割が「チューターはいない・いたことがない」と回答している。

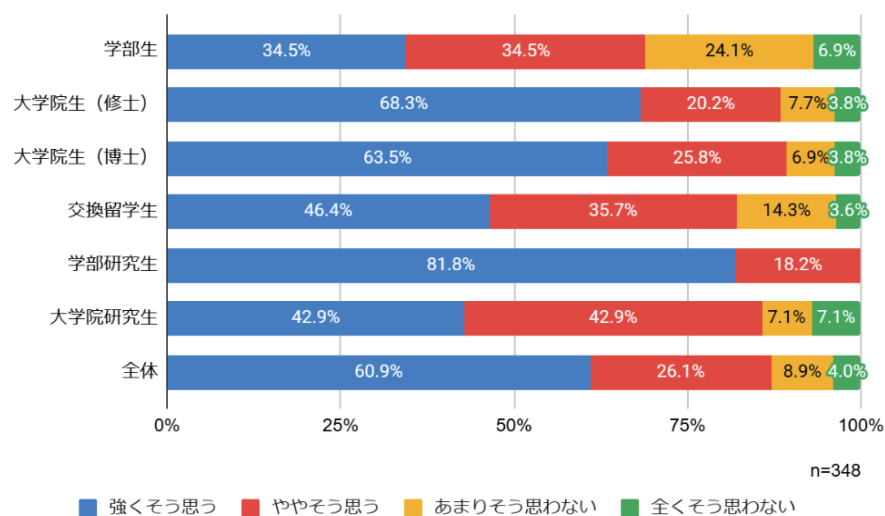
図書館の利用環境



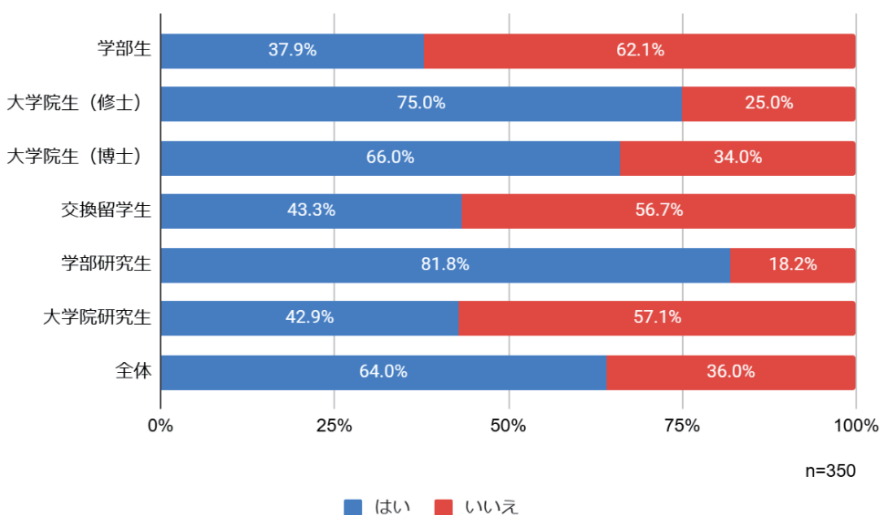
担当教員・指導教員から研究活動における期待が伝えられているか



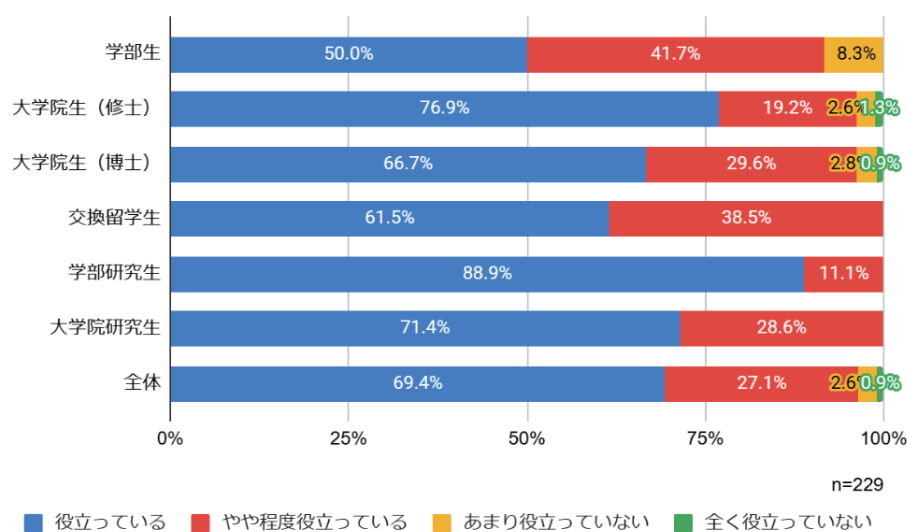
指導教員から研究進捗について明確かつ建設的でタイムリーなフィードバックを与えられているか



指導教員と進路に関する定期的な面談・相談の機会があるか

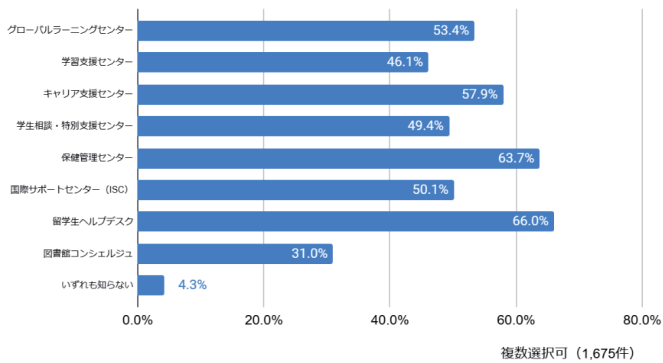


上記で「はい」と答えた方への質問：進路に関する面談・相談の役立ち度

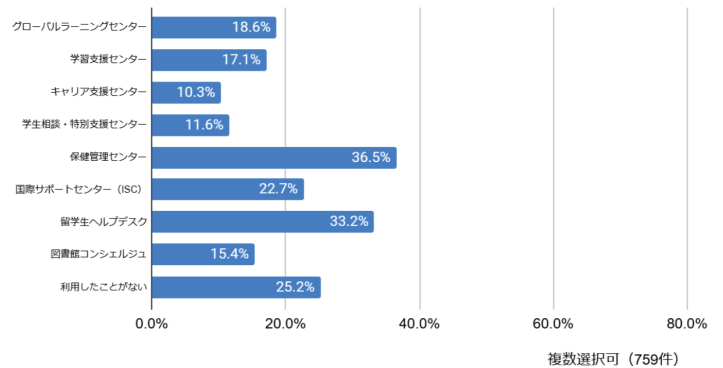


- 大学院生（修士）の 75.0%、大学院生（博士）の 66.0%、学部研究生の 81.8% が進路に関する定期的な面談・相談の機会があると回答しており、うち 9 割以上の学生が「役に立っている」「やや程度役に立っている」と回答している。

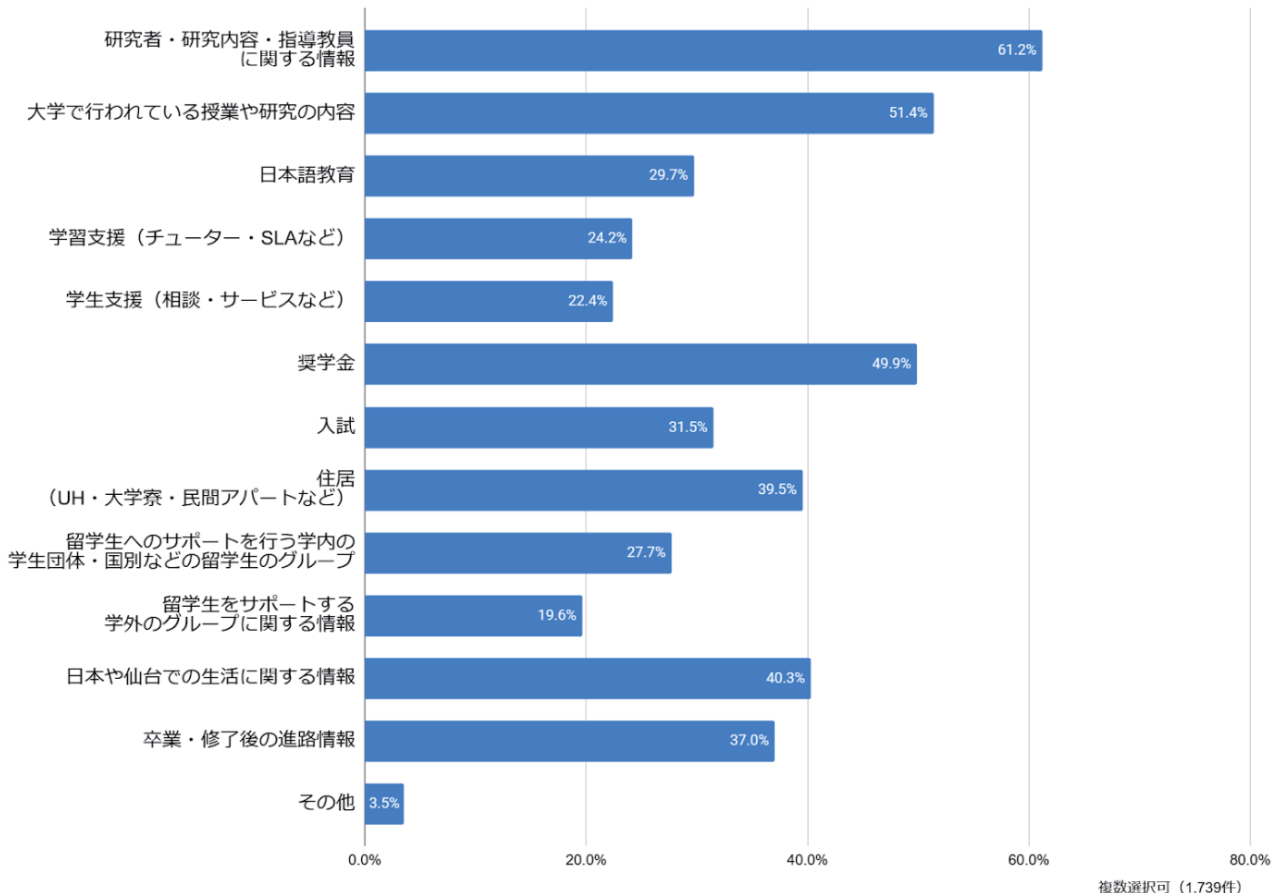
東北大学で提供されている学生支援の認知度



東北大学で提供されている学生支援の利用度



東北大学への留学に向けた準備時に必要な情報

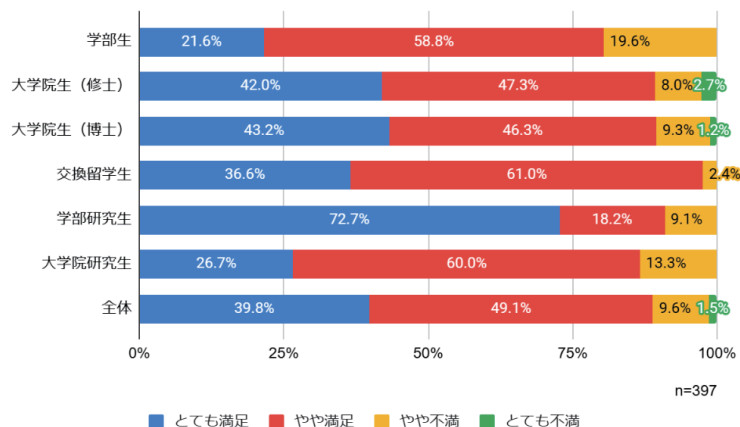


- 大学内で提供されている学生支援については、「保健管理センター」および「留学生ヘルプデスク」の認知度および利用率が高い。
- 東北大学への留学準備時の必要とする情報としては、「研究者・研究内容・指導教員に関する情報」が 61.2% と最も高く、「大学で行われている授業や研究の内容」が 51.4%、「奨学金」が 49.9% と続く。

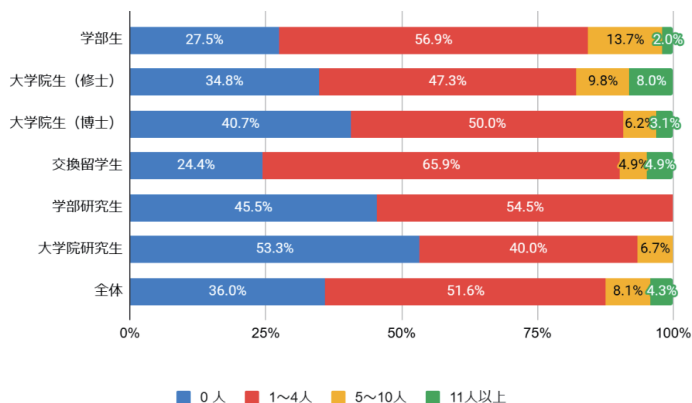


- 学内手続きの簡略化、DX 化を進めてほしい
(電話が苦手な学生向けにオンライン予約を可能とするなど)。
- 事故時などの保険に関する相談をできる仕組みがほしい。

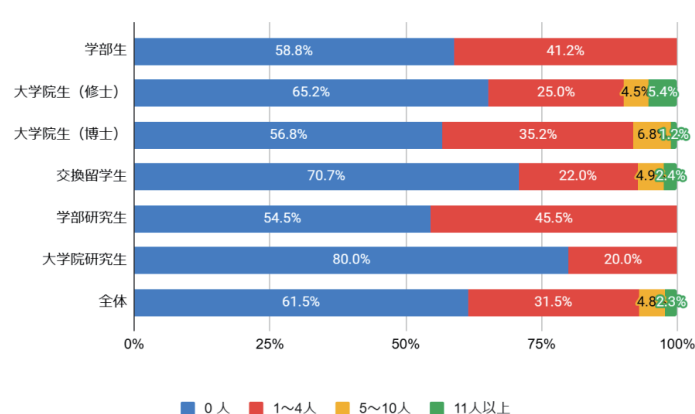
心身健康に関する東北大学からの支援の満足度



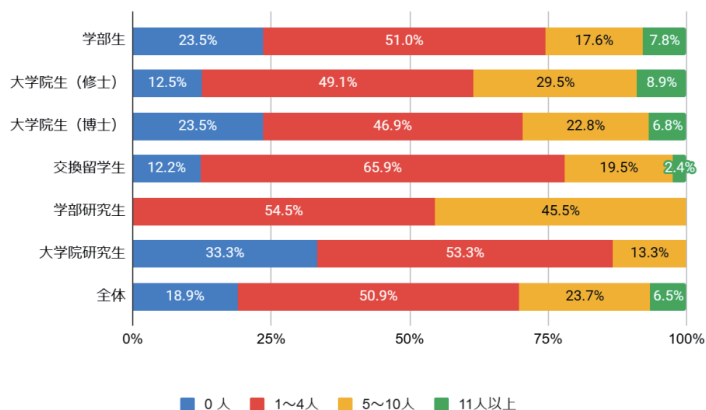
学内における日本人の親しい友人の数



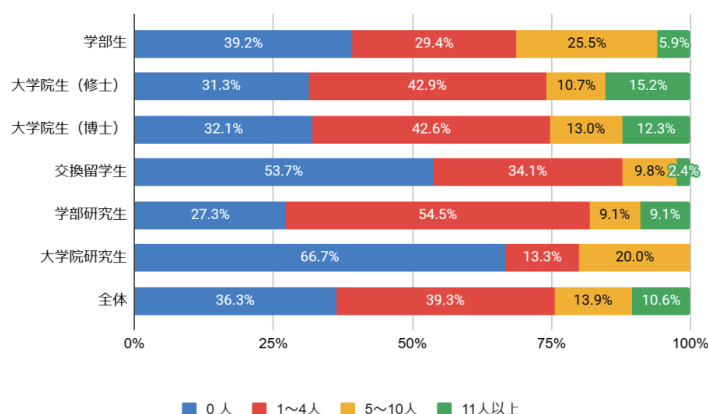
学外における日本人の親しい友人の数



学内における同国・同地域出身の親しい友人の数



学外における同国・地域出身の親しい友人の数

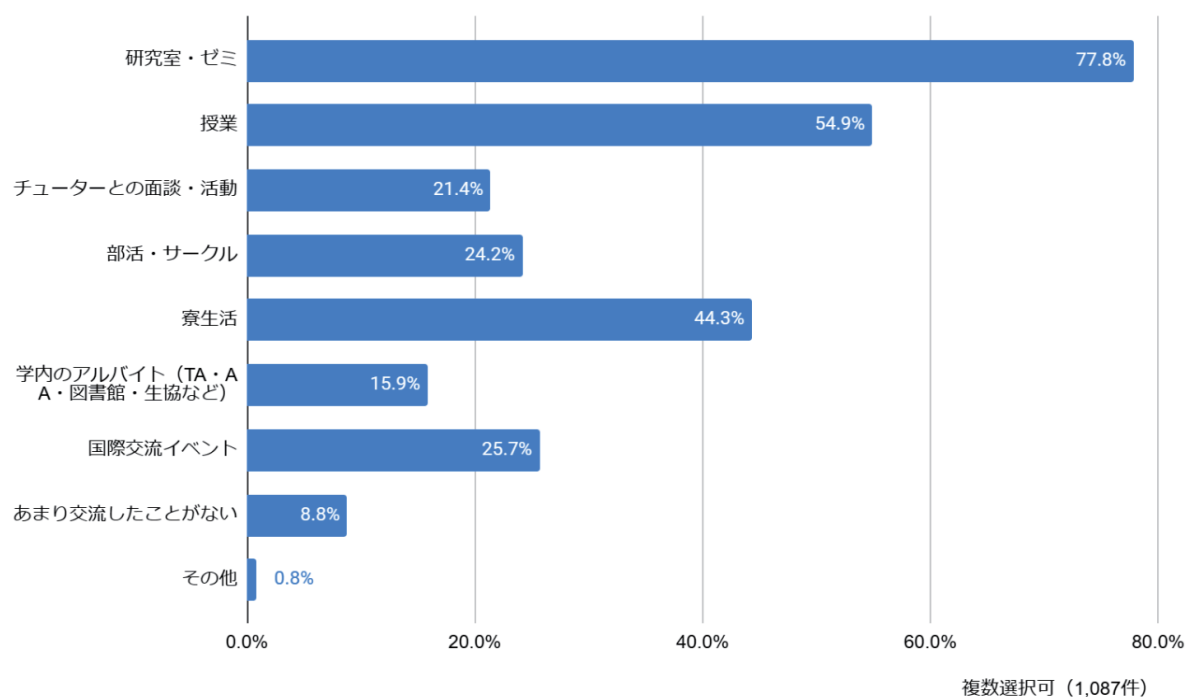


- 学生全体の 36% が学内で、61.5% が学外で日本人の親しい友人が全くいないと回答している。また学生全体の 8 割以上が、学内での日本人の親しい友人を 4 人以下と回答しており、また、学外での日本人の親しい友人についての同割合は、約 9 割となっている。
- 学内の同国出身の親しい友人についても、学生全体の 69.8% が 4 人以下と回答し、そのうち、18.9% が全くいないと回答していたことから留学生の孤独が懸念される。



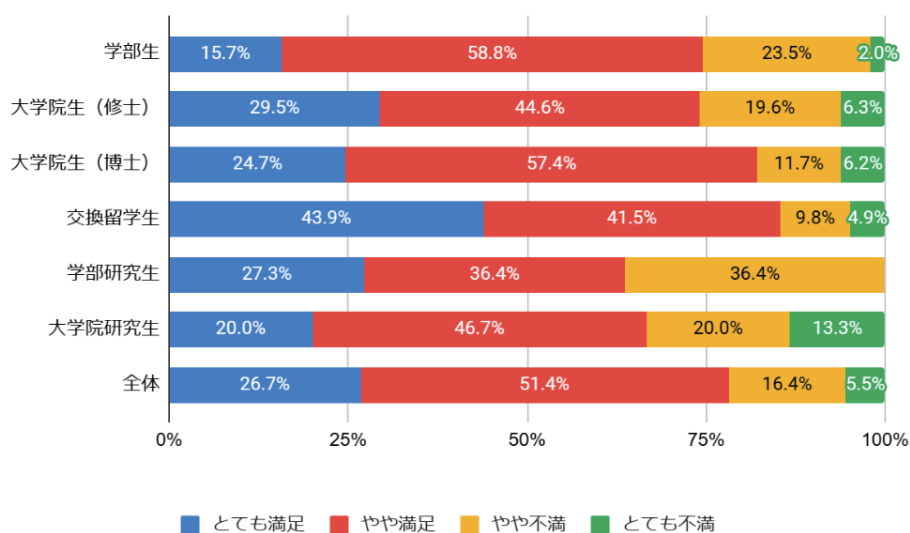
- 心理相談に関するサポートにより力をいれてほしい。
- 文化や言語の壁により新たな友人と出会う機会が限られているため、積極的に国際交流機会など、日本に馴染むための支援を行ってほしい。

東北大学の日本人学生との交流機会



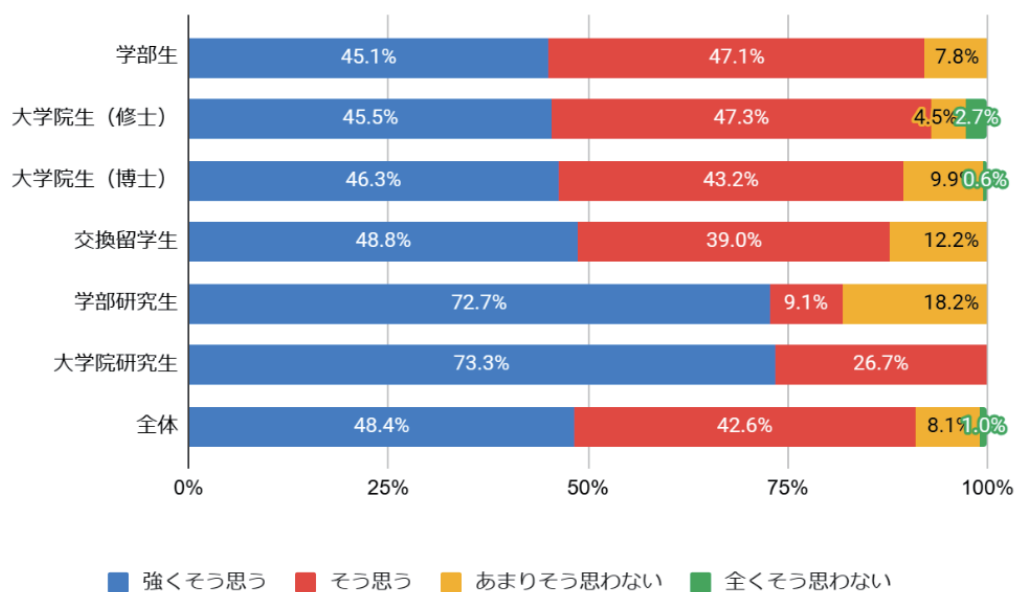
- 日本人との交流機会については、「研究室・ゼミ」での交流機会が全体で最も高い割合で、「授業」「寮生活」と続く。

日本人学生との交流についての満足度

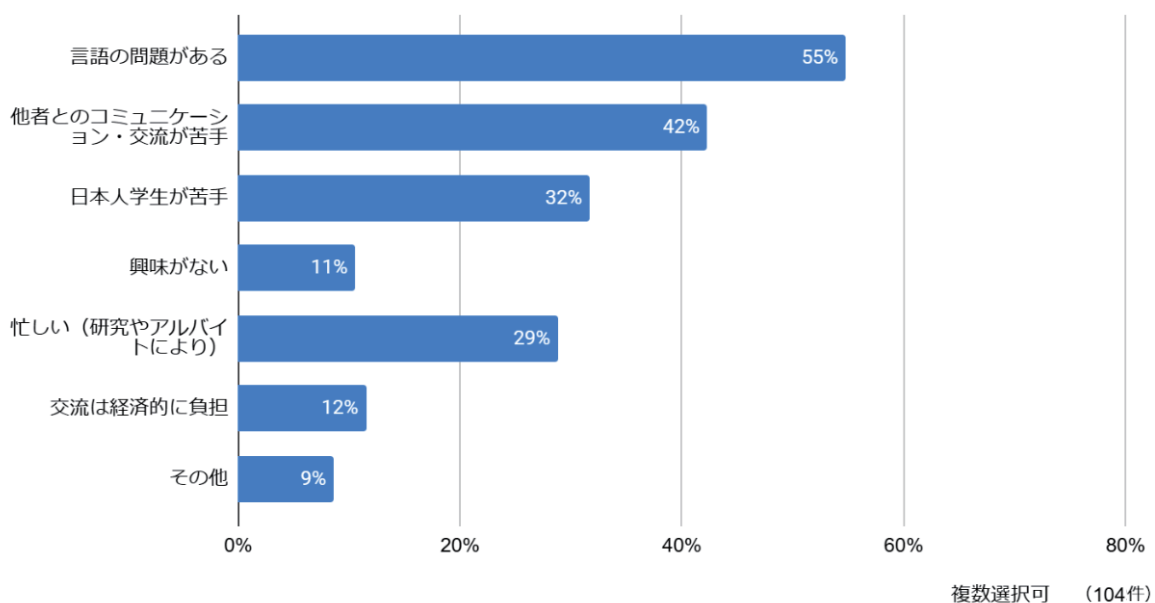


国際交流の機会として、国際共修授業や課外活動等を活発に行ってほしい。

日本人学生ともっと交流したいかどうか



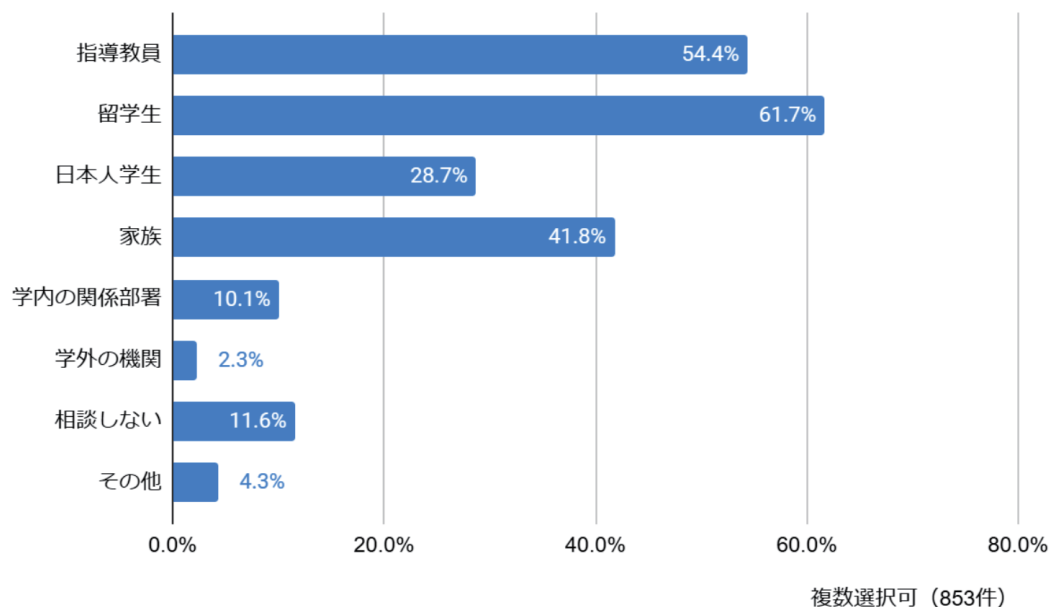
上記で「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と答えた理由



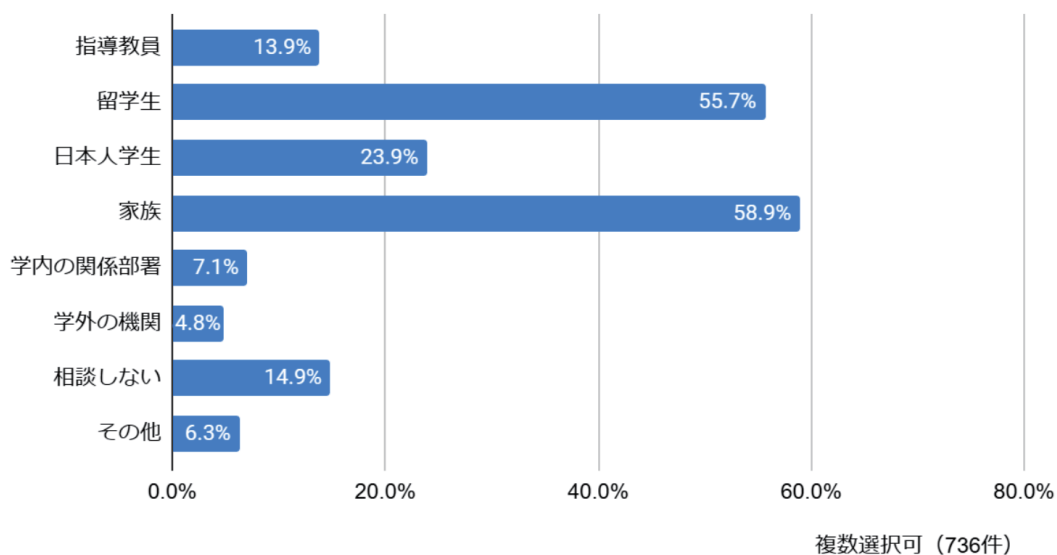
- 本人学生ともっと交流したいかどうかについて、全体では91.0%の学生が「強くそう思う」または「そう思う」と回答した。
- 上記で交流を望まない場合、その理由としては、「言語の問題がある」「他者とのコミュニケーション・交流が苦手」を挙げた学生の割合が高かった。

【 学生生活において、悩みや不安があるときの相談相手 】

学業について

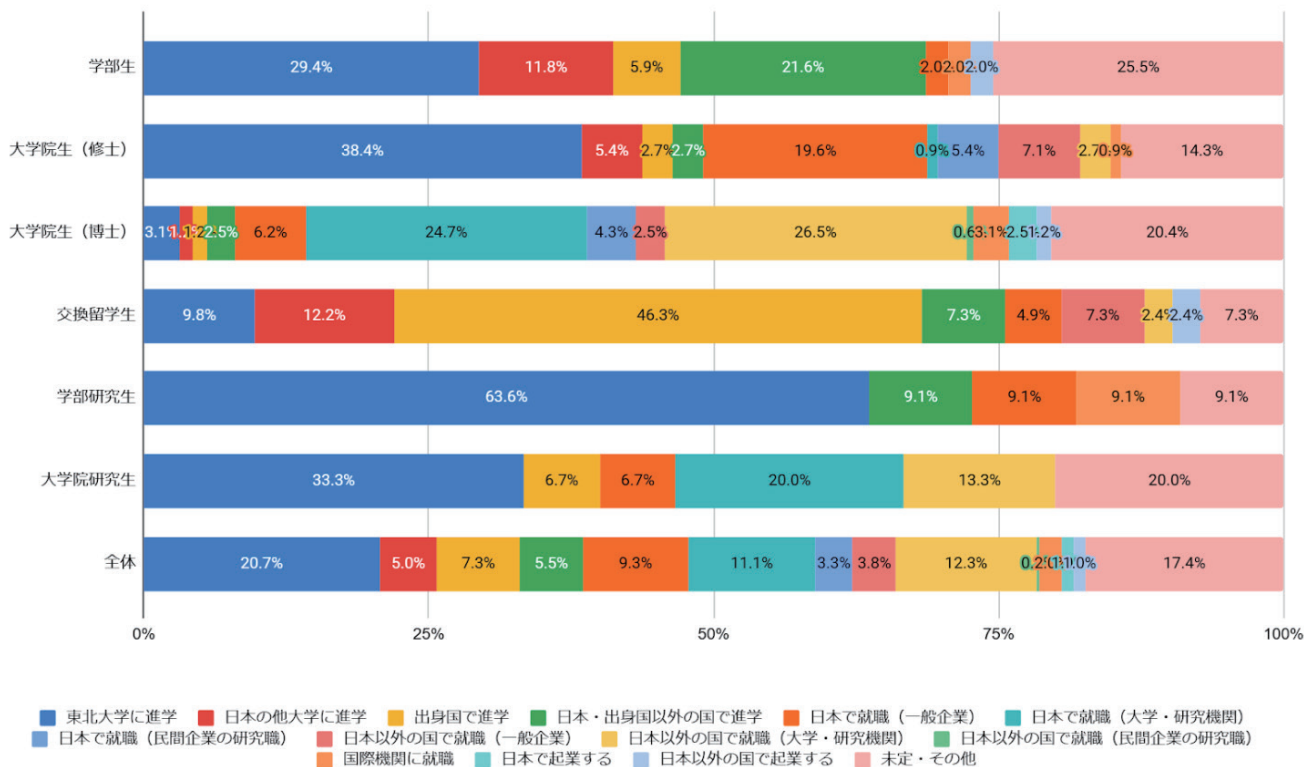


生活（健康・私生活など）について

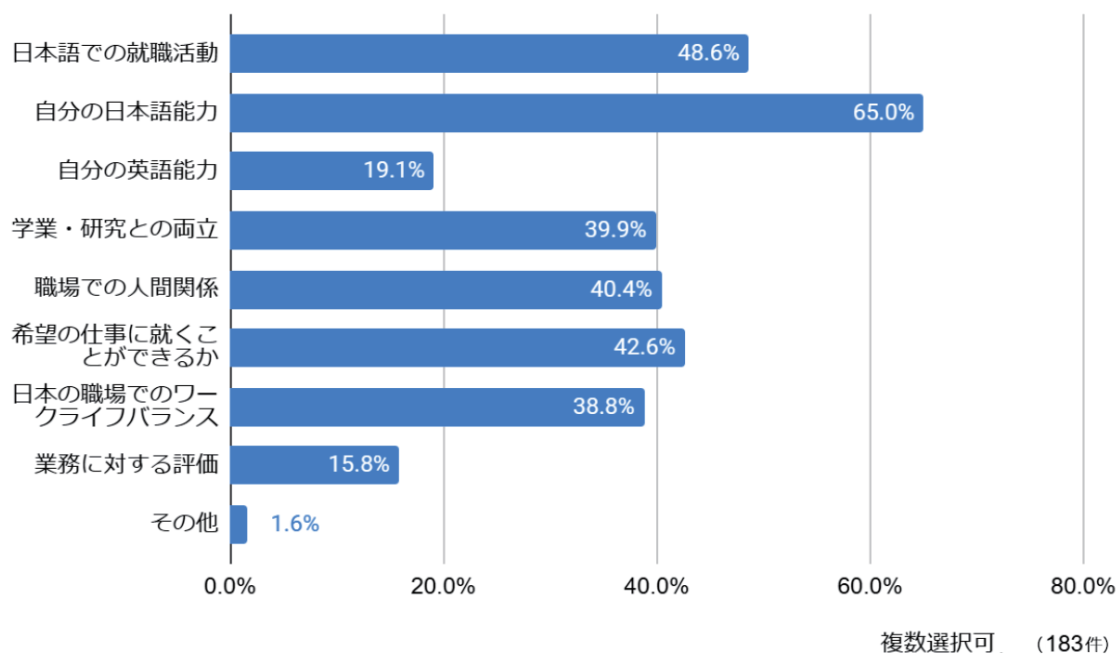


- 学業については、「留学生」や「指導教員」に相談をすると回答した者が多く、生活については「家族」や「留学生」と回答した者が最も多かった。

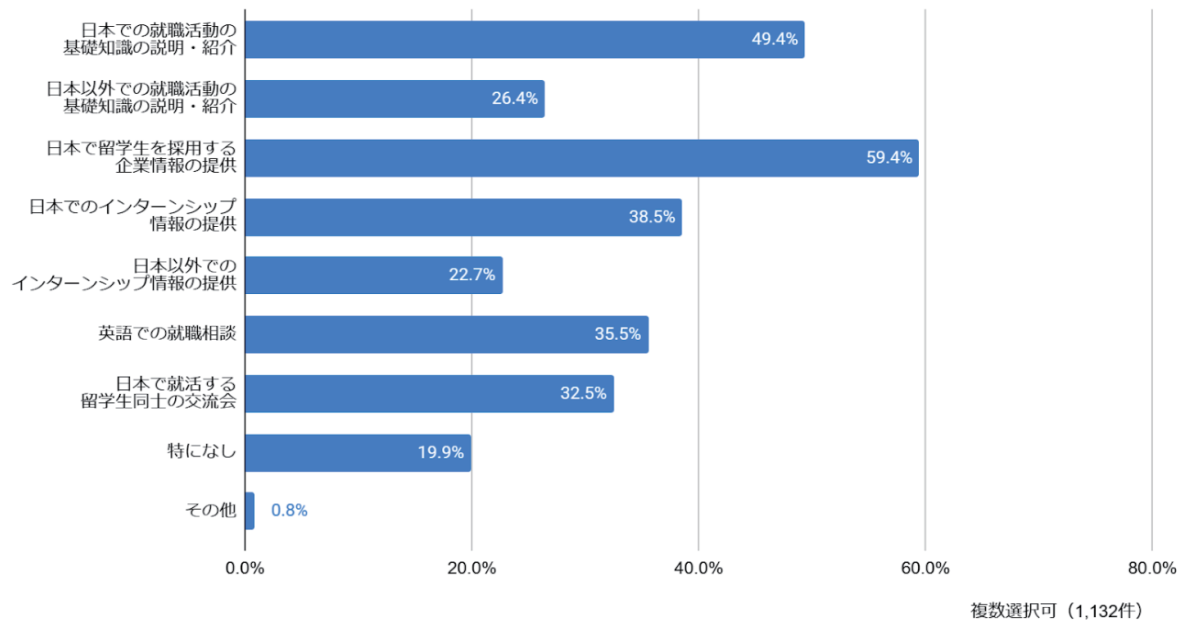
在籍中の課程を卒業・修了した後の希望進路



上記で「日本で就職」と答えた方が就職活動について感じる不安



東北大学で受けたい就職支援サービス



- 在籍中の課程を卒業・修了した後の希望進路について、学生全体では、「東北大学に進学する」が 20.7% と最も多く、「未定」(16.6%)、「日本以外の国で就職（大学・研究機関）」(12.3%) と続いている。
- 日本での就職を希望する学生については、「自分の日本語能力」「日本語での就職活動」を不安視する回答が多い。
- 東北大学で受けたい就職支援サービスについては「就職活動の基礎知識の説明・紹介」「留学生を採用する企業情報の提供」のニーズが高い。

実 施

高度教養教育・学生支援機構グローバルラーニングセンター

<https://www.insc.tohoku.ac.jp/>